

第1問

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、設問ごとに最も適当と思われるものを選び、答案用紙の（ ）の中に記号で解答すること。

1. 株式会社を設立するために発起人が立て替えていた定款作成費用や設立登録免許税など ¥ 800,000 を精算し、現金で支払った。また、営業開始を告知するためのチラシの印刷代 ¥ 77,000 についても現金で支払った。

- | | | | |
|--------|----------|--------|--------|
| ア. 現金 | イ. 契約資産 | ウ. 立替金 | エ. 前払金 |
| オ. 資本金 | カ. 広告宣伝費 | キ. 創立費 | ク. 開業費 |

2. 決算に際し、商品売買やその他の取引に関連する消費税の納付額を算定し、確定した。なお、当期中に支払った消費税の総額は ¥ 2,300,000 であったのに対し、受け取った消費税の総額は ¥ 2,060,000 であった。消費税は税抜方式によって処理している。

- | | | | |
|----------|-----------|------------|-------------|
| ア. 仮払消費税 | イ. 仮払法人税等 | ウ. 未収還付消費税 | エ. 未収還付法人税等 |
| オ. 仮受消費税 | カ. 未払消費税 | キ. 未払法人税等 | ク. 租税公課 |

3. 12月12日に満期まで保有する目的で愛媛産業株式会社発行の社債（額面総額 ¥ 100,000,000）、利率年0.2%、利払日は3月末日および9月末日）を額面 ¥ 100 に対し ¥ 99 で取得し、代金は証券会社に支払った手数料 ¥ 200,000 および端数利息（1年を365日とする日割計算による）とともに、普通預金口座から支払った。

- | | | | |
|------------|-----------|-------------|-------------|
| ア. 普通預金 | イ. 当座預金 | ウ. 売買目的有価証券 | エ. 満期保有目的債券 |
| オ. その他有価証券 | カ. 有価証券利息 | キ. 有価証券評価益 | ク. 支払手数料 |

4. 当社の従業員X氏が本日退職し、今月分の給料 ¥ 400,000 および退職一時金 ¥ 21,000,000 から所得税の源泉徴収額 ¥ 470,000 と住民税の源泉徴収額 ¥ 30,000 を差し引いた手取り額を当座預金口座から支払った。前期末におけるX氏に対する退職一時金は ¥ 19,800,000 と見積もられていた。なお、前期末における退職給付引当金の残高は ¥ 356,000,000 であり、かつ退職給付引当金への繰入れは決算時のみ行うものとする。

- | | | | |
|------------|---------|-----------|-----------|
| ア. 普通預金 | イ. 当座預金 | ウ. 所得税預り金 | エ. 住民税預り金 |
| オ. 退職給付引当金 | カ. 給料 | キ. 退職給付費用 | ク. 租税公課 |

5. 商品Aと商品Bをそれぞれ ¥ 300,000 および ¥ 250,000 で得意先Y社に販売する契約を過日締結した。商品Aの引渡しと商品Bの引渡しは、それぞれ独立した履行義務であると判断されており、代金は商品Aおよび商品Bの両方とも引渡した後に請求する契約となっている。本日、商品AをY社に引き渡したが、商品Bについては在庫がないため後日引渡しを行うこととなった。なお、商品売買の記帳は3分法に基づいている。

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| ア. 現金預金 | イ. 売掛金 | ウ. 契約資産 | エ. 繰越商品 |
| オ. 返金負債 | カ. 契約負債 | キ. 売上 | ク. 仕入 |